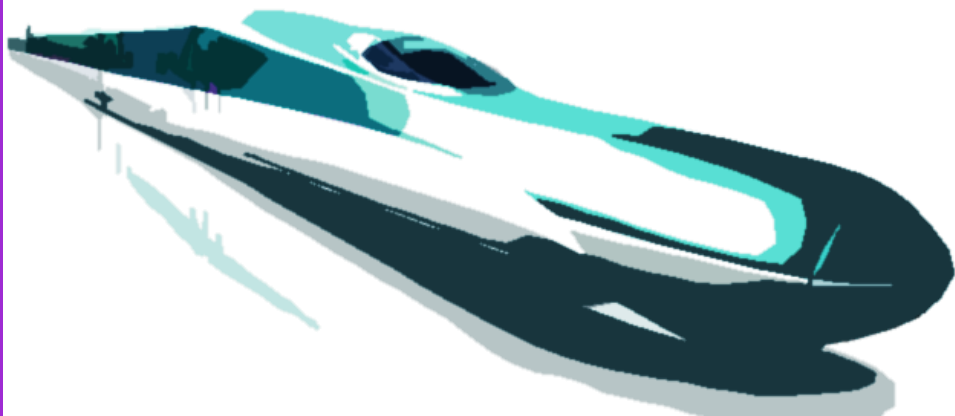


おたる新幹線まちづくり アクションプラン (案)



2021 年 3 月

北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会

— 目 次 —

アクションプランについて

策定趣旨	1
アクションプランの位置付け	2
計画期間	3
推進体制と進捗管理	4

2次交通対策

基本方針1. 利便性の高い2次交通網の構築	5
(1)バス交通の充実	8
(2)タクシーサービスの充実	10
(3)レンタカーサービスの充実	12
(4)レンタサイクルの充実	13
基本方針2. 実効性を高める基盤づくり	
(1)ICTを活用した新たなモビリティサービスの提供	14
(2)広域連携を強化する体制の構築	16
(3)新駅の交通結節点機能の向上	17
(4)移動円滑化の取組の推進	19
基本方針3. 公共交通の利用促進と充実の好循環	
(1)情報発信の強化	20
(2)公共交通の利用を促進するサービスの提供と魅力づけ	22
(3)新駅周辺の魅力づくり	24
(4)移住・定住の促進	26

ソフト対策

基本方針1. 新幹線開業を契機とした個人観光客の誘致拡大	27
(1)小樽の文化・食資源を活用した多彩な個人観光客向けプログラムの開発	30
(2)地域連携や電子媒体の活用等による効果的な情報発信	32
基本方針2. 新幹線開業を地域の活力に繋げる取組	
(1)滞在時間・宿泊客の拡大を目指した取組	34
(2)小樽の地域産業と観光産業の結びつき強化	35
(3)観光入込の季節間の平準化に向けた取組推進	37
(4)中小事業者を中心とした外国人観光客への対応力強化	38
(5)企業立地の促進	39
基本方針3. 新駅周辺の魅力づくり	
(1)新駅を起点とした新たな観光プログラムの創造	40
基本方針4. 開業気運の醸成	
(1)新幹線開業に向けた市民の意識醸成と利用促進	42
(2)開業気運を高めるイベントの実施	43

参考資料

資料1. 新駅周辺地域の土地利用計画	44
資料2. 新駅周辺整備イメージ図	45
資料3. 北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会	46

アクションプランについて

策定趣旨

北海道新幹線の新函館北斗駅～札幌駅間が 2030(令和 12)年度末に開業し、小樽市では新小樽(仮称)駅が設置されます。安全性・定時性に優れ、高速かつ大量輸送が可能な新幹線の開業により、容易に移動できるエリアが格段に広がり、住民の利便性向上や交流人口の拡大、地域経済の活性化が期待されます。この新幹線開業効果を最大限に引き出すためには、市民や団体、事業者、行政が一体となり、周辺の自治体とも連携しながら、新幹線開業に向けた取組を着実に進めていく必要があります。

このため、小樽市が 2017(平成 29)年 3 月に策定した「北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画(以下、「まちづくり計画」という。)」に基づき、2018(平成 30)年 12 月に設置した「北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会」が、官民一体となって新幹線の開業効果を最大限に活用した魅力あるまちづくりを行うための具体的な行動計画として、「おたる新幹線まちづくりアクションプラン」を策定したものです。

【新小樽(仮称)駅の概要】

北海道新幹線は、新青森駅(青森市)と札幌駅(札幌市)の延長約 360 km を結ぶ整備新幹線です。

北海道新幹線の起終点の駅の間には、9 つの駅(道内 7 駅)の設置が計画されており、新小樽(仮称)駅は天神地区に設置されます。新小樽(仮称)駅を含む札幌駅までの区間は、2030(令和 12)年度末に開業する予定です。



北海道新幹線路線図

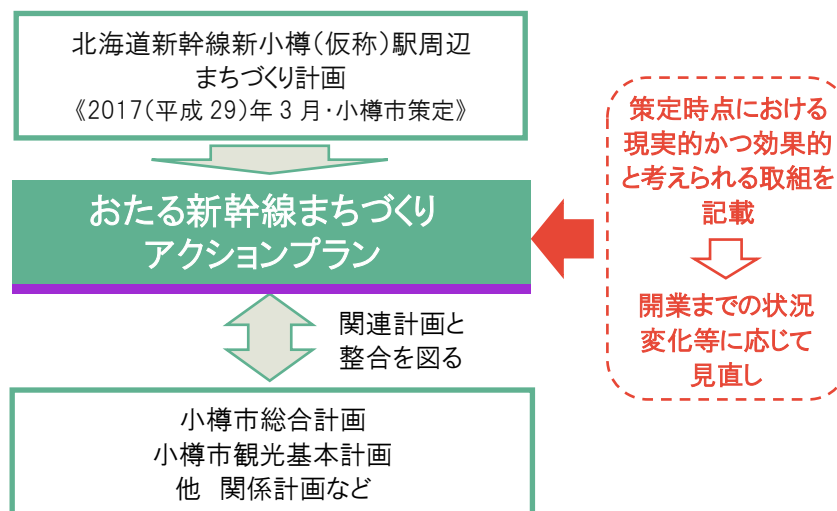


北海道新幹線新小樽(仮称)駅の位置図

アクションプランの位置付け

本アクションプランは、まちづくり計画に基づき、「小樽市総合計画」や「小樽市観光基本計画」などの関連計画等と整合を図りながら、2次交通対策とソフト対策をテーマとして、官民が連携して様々な取組を推進するための行動計画です。

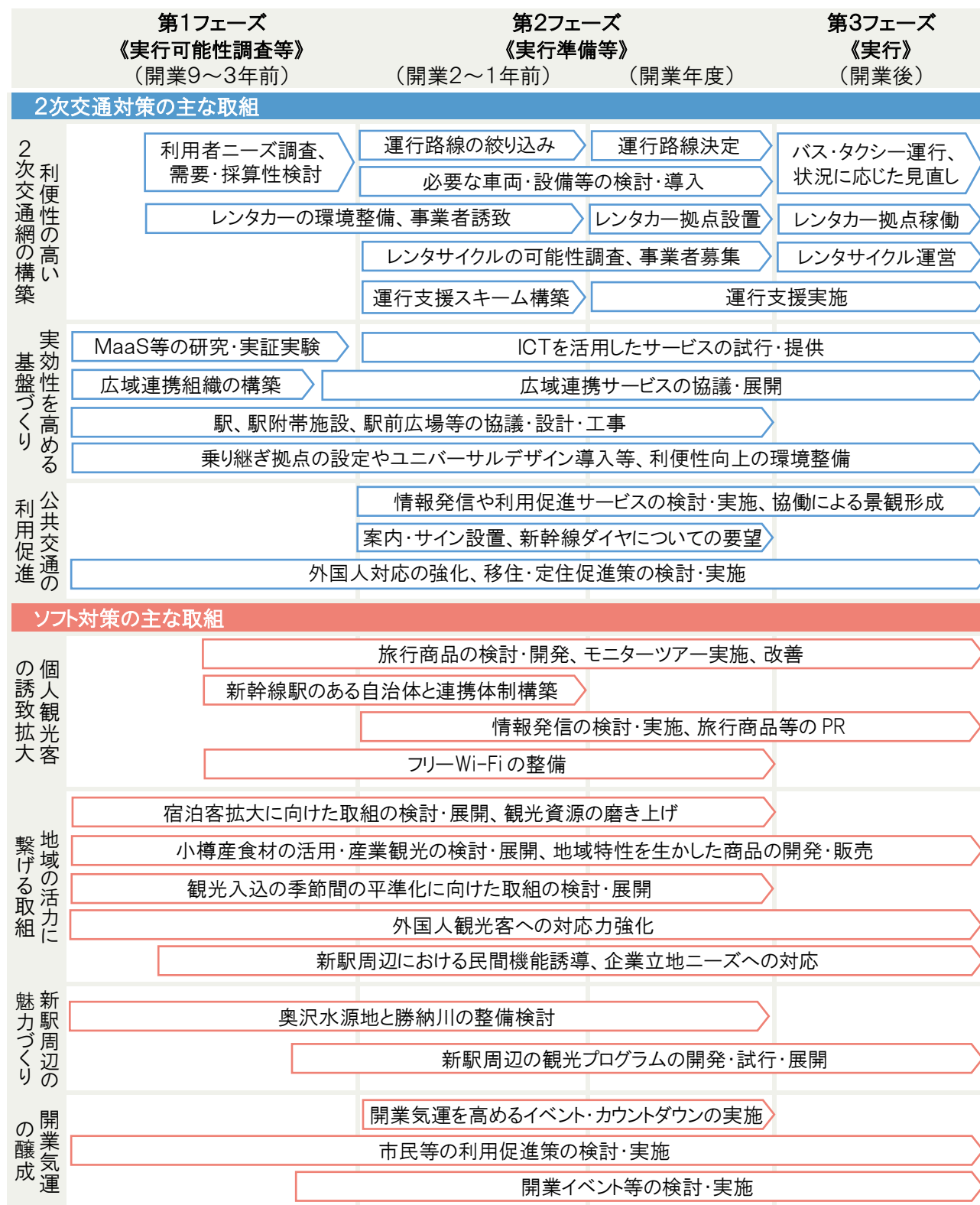
本アクションプランには、策定時点における現実的かつ効果的と考えられる取組を記載していますが、今後、新小樽(仮称)駅(以下、「新駅」という。)の利用者増加に向けた議論を進めるほか、開業までの状況変化に対応するため、柔軟に見直しを行います。



計画期間

本アクションプランの計画期間は、開業までの 2021(令和3)年度から 2030(令和12)年度の 10 年間としますが、開業後の取組に着実に繋げるため、その見通しも示すこととします。開業後は、取組の効果検証等を踏まえた見直し及び新たな取組の実施により、開業効果の継続的な拡大を図ります。

ここでは、開業後も含めた2次交通対策及びソフト対策の全体スケジュールを示します。

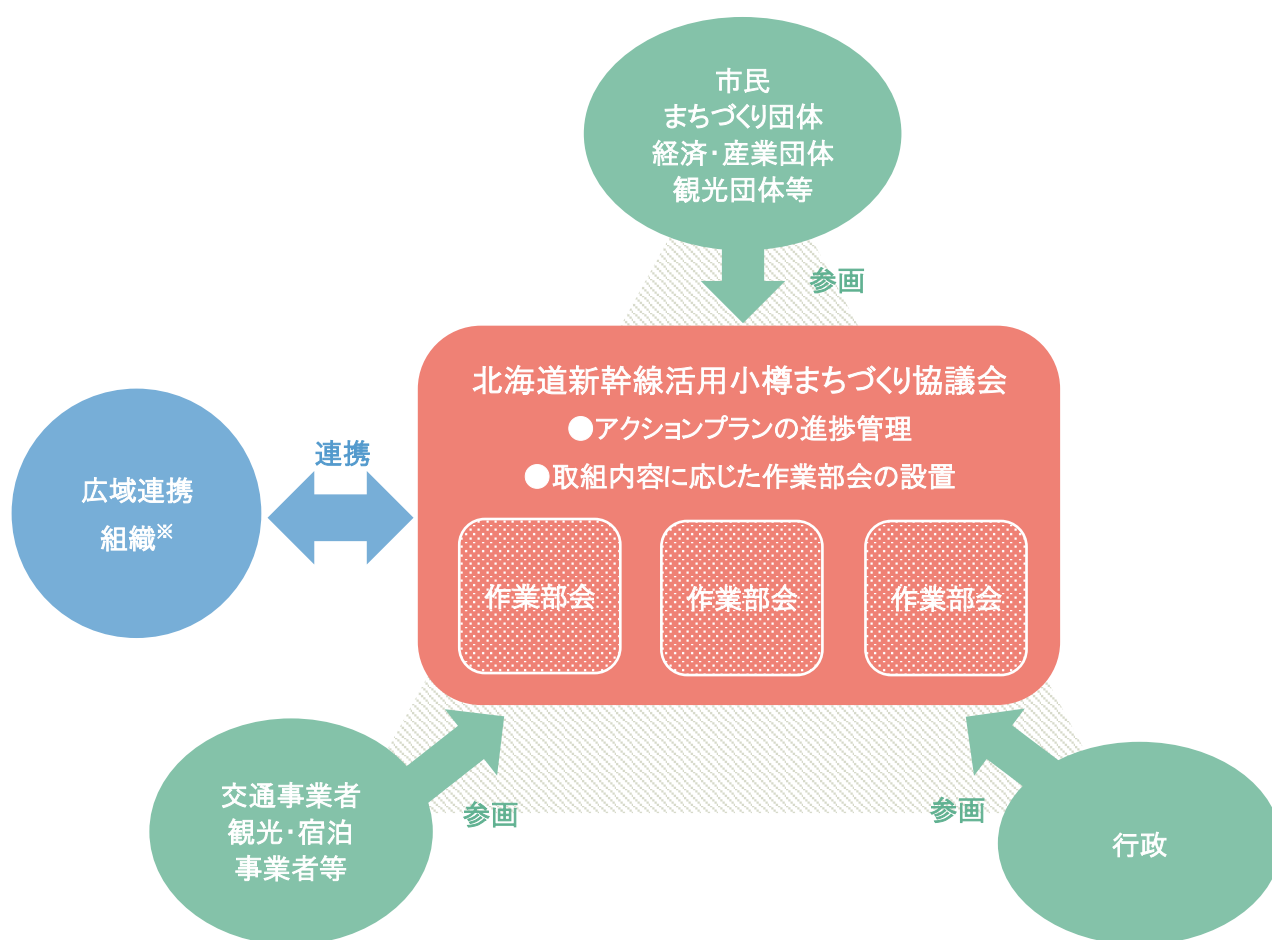


推進体制と進捗管理

アクションプランの各取組を実効性のあるものとするため、取組内容に応じて、本協議会に具体的な議論を行う作業部会を設置するとともに、各事業主体が実施に向けた検討を進め、実施可能なものから順次実行に移します。

また、広域的な取組については、広域連携組織[※]と連携して実施します。

これらの取組について、本協議会にて整合を図りながら進捗管理を行い、着実にプランを推進します。



※広域連携組織…周辺自治体(北後志地域、後志全域、札幌市など。取組内容による。)や事業者等で構成し、広域の取組について検討・実施する組織。

2 次交通対策

2次交通対策では、3つの基本方針(利便性の高い2次交通網の構築、実効性を高める基盤づくり、公共交通の利用促進と充実の好循環)に基づき、35の取組を行います。

○基本方針1 利便性の高い2次交通網の構築

既存の2次交通手段を活用するとともに、新たな交通手段やサービスの導入を検討し、新幹線利用者にとって利便性が高く、持続可能な2次交通網を構築します。

○基本方針2 実効性を高める基盤づくり

基本方針1で検討した取組の実効性を高めるため、ICTの活用促進や広域連携体制の構築、乗り継ぎ環境整備などの基盤づくりを行います。

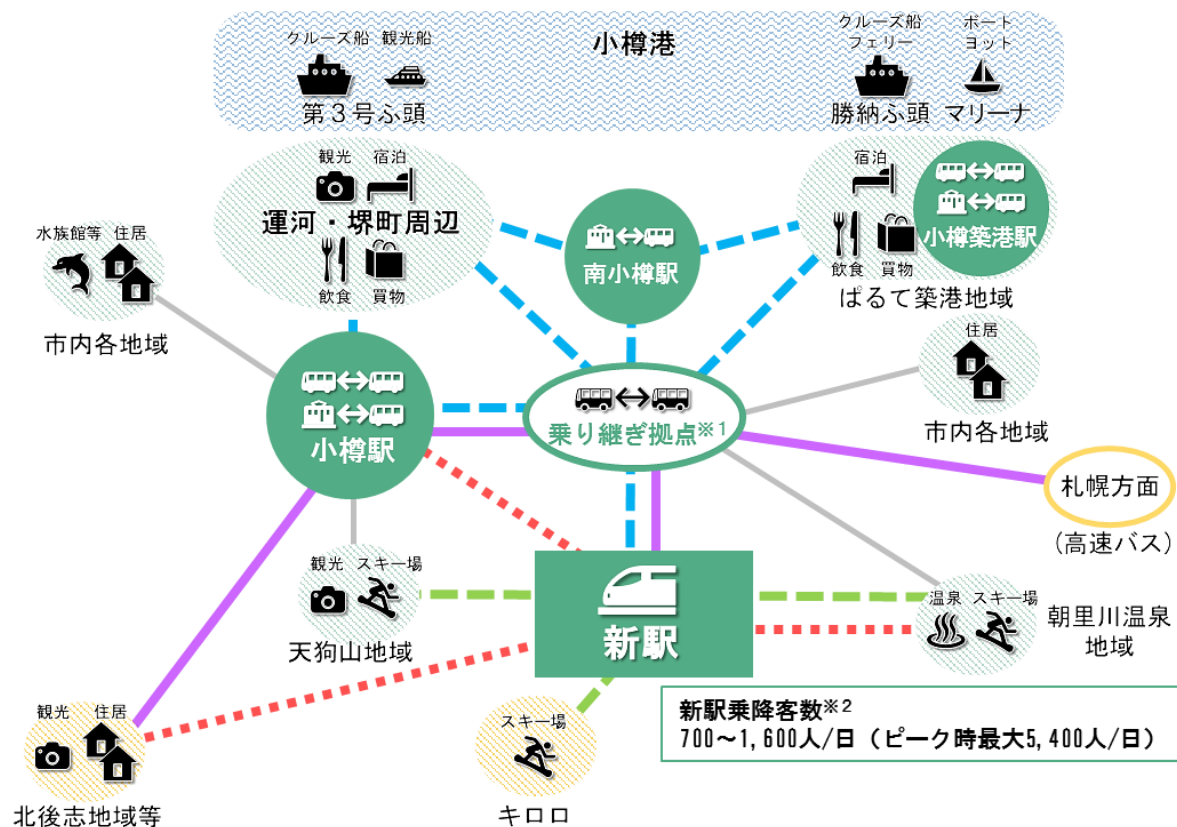
○基本方針3 公共交通の利用促進と充実の好循環

情報発信の強化や公共交通の利用を促すサービスの提供、移住・定住の促進などにより、公共交通の需要拡大を図り、基本方針1に掲げる2次交通が充実する好循環を目指します。

基本方針	項目	取組の概要
1. 利便性の高い2次交通網の構築	(1)バス交通の充実	ア. 新駅と市内中心部を結ぶ専用シャトルバスの運行
		イ. 現在の路線バスの活用
		ウ. 新駅と朝里川温泉やスキー場を結ぶバス交通の検討
		エ. 北後志地域等をつなぐ路線バスの活用
		オ. 外国人観光客にも対応したバスの運行
		カ. 持続可能な運行体制の構築
	(2)タクシーサービスの充実	ア. IoTを活用した配車システムの導入
		イ. 外国人観光客にも対応したタクシーサービスの充実
		ウ. 乗合タクシーの検討
	(3)レンタカーサービスの充実	ア. レンタカー事業者の誘致
		イ. レンタカーによる周遊性の向上
	(4)レンタサイクルの充実	ア. 可能性調査を踏まえたレンタサイクル拠点の設置
		イ. 身軽になってサイクリングを楽しむことができるサービスの提供
2. 実効性を高める基盤づくり	(1)ICTを活用した新たなモビリティサービスの提供	ア. 観光型MaaS等の新たなモビリティサービスの提供
		イ. 交通・観光関連事業者のキャッシュレス決済の導入促進
	(2)広域連携を強化する体制の構築	ア. 広域連携を強化する組織づくり
	(3)新駅の交通結節点機能の向上	ア. 利便性の高い駅機能の確保
		イ. 駅前広場等の整備
	(4)移動円滑化の取組の推進	ア. バスの利便性向上の環境整備
		イ. タクシーの利便性向上の環境整備
		ウ. ユニバーサルデザイン等の導入の推進
3. 公共交通の利用促進と充実の好循環	(1)情報発信の強化	ア. 積極的な情報発信・PR
		イ. 新駅に向かう案内・サインの設置
		ウ. 外国人対応の強化
	(2)公共交通の利用を促進するサービスの提供と魅力づけ	ア. 身軽になって観光を楽しむことができるサービスの提供
		イ. 新駅と倶知安の周遊性を高めるサービスの検討
		ウ. クルーズ船等との連携
		エ. 地域連携等による魅力的なサービスの提供
		オ. 魅力ある車両の導入
	(3)新駅周辺の魅力づくり	ア. 小樽のまちのイメージが伝わる駅舎や駅前デザインの検討
		イ. 自然の豊かさや四季の移り変わりを感ずる景観形成
		ウ. 新駅の立地特性を生かした魅力づくり
	(4)移住・定住の促進	ア. 新駅周辺における住宅の整備促進
		イ. 新幹線通勤・通学者の利用増加に向けた取組
		ウ. 交通事業者の人材確保を兼ねた移住・定住促進策

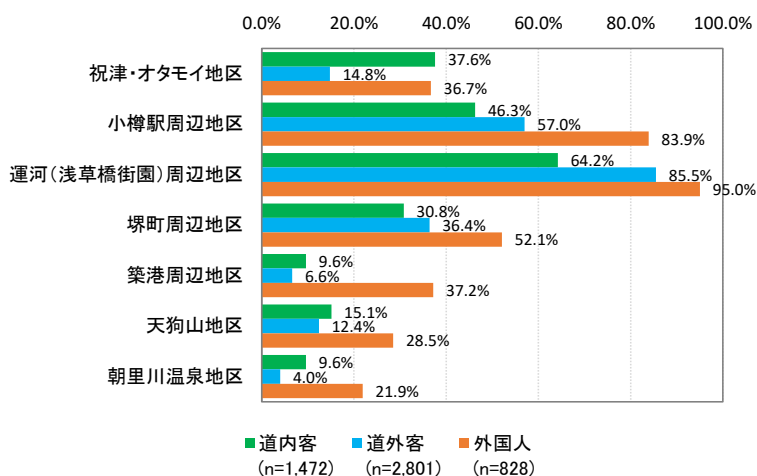
新駅からの人の動きと2次交通路線のイメージ

この図は、本アクションプランで掲げている公共交通路線のイメージを表したものです。実際の運行に当たっては、持続的に運行できるよう、利用者ニーズ調査等により採算性や優先度を検討し、路線の絞り込みを行います。



<凡例>

- 既存バス路線の活用（新駅との接続路線）
- シャトルバスの検討
- 送迎バスの検討
- 乗合タクシーの検討
- 既存バス路線（乗継拠点またはJR駅との接続路線）



参考：観光客の周遊観光ゾーン
(出典：H30 小樽市観光客動態調査)

新駅乗降客数 交通手段別推計 ※2 (まちづくり計画から抜粋 単位：人/日)	
路線バス	154 ～ 236
タクシー	171 ～ 251
徒歩・二輪	53 ～ 73
自家用車 (レンタカーを含む)	356 ～ 966
貸切バス	0 ～ 117
合計	734 ～ 1,643

※1 乗り継ぎ拠点：ここでは奥沢十字街近辺を想定

※2 新駅の乗降客数：まちづくり計画における推計値

(1) バス交通の充実

新駅と主な目的地を結ぶ主要な交通手段として、シャトルバスの新設や既存路線の活用のほか、ICTの活用や適切な運行支援などにより、持続可能で利便性の高いバス交通網を構築します。

課題と解決策

課題	解決策
新駅と市内中心部のアクセス強化	● 専用シャトルバスの運行 ● 周遊観光バスの検討
バス事業者の乗務員不足により、増便や路線増が困難	● 新幹線のダイヤに合わせた既存路線のダイヤ調整 ● 自動運転バスの調査研究、実証実験の検討 ● バス事業者以外の事業者による観光地や宿泊地への移動手段の確保
増加する外国人観光客への対応	● 外国人観光客に対応した観光案内、車両の導入
ニーズや採算性が不明	● ニーズ調査の実施及び運行支援策の検討

取組の概要

ア. 新駅と市内中心部を結ぶ専用シャトルバスの運行

- ・新駅と小樽駅または南小樽駅など、多くの利用が予想される区間について、専用シャトルバスの運行を検討します。
- ・シャトルバスは、運河周辺・堺町・築港等の途中経由(周遊)についても検討します。

イ. 現在の路線バスの活用

- ・新駅と小樽駅を結ぶ現「奥沢線」について、新幹線のダイヤとバスの利用状況を踏まえ、既存路線のダイヤを調整します。(時刻の調整、直通バス、快速バスの検討等)
- ・地域住民の新幹線通勤を想定した朝夕に絞ったバス路線およびダイヤを検討します。

ウ. 新駅と朝里川温泉やスキー場を結ぶバス交通の検討

- ・朝里川温泉地域の宿泊事業者等が共同で運行する送迎バスの導入を検討します。
- ・ニセコや札幌に滞在しながら多様なスキー場を楽しみたい外国人客等をターゲットとして想定し、冬季限定で新駅と天狗山スキー場や朝里川スキー場、キロロスキー場等を結ぶバスの運行を検討します。

エ. 北後志地域等をつなぐ路線バスの活用

- ・新幹線の整備効果を北後志地域や岩宇地域※等へ波及させるため、小樽駅を経由して北後志地域等まで向かう高速バスなど、既存路線の活用を検討します。
- ・持続的な路線の維持を図るため、観光客の利用に加え、周辺住民の日常的な交通手段としての利用も促進します。

※ 岩宇地域…共和町、岩内町、泊村、神恵内村の4町村全域の総称。

オ. 外国人観光客にも対応したバスの運行

- ・外国人観光客がスムーズに利用できるよう、電子マネーやスマホ決済等のキャッシュレス決済の導入(例:決済機能付きタブレット)、ICTを活用した外国人観光客との円滑なコミュニケーションツール(例:ポケットク)の導入を検討します。
- ・大きな荷物を抱えた外国人観光客が新駅を利用することが考えられることから、運行するバスは手荷物用の空間を多く確保できるよう工夫します。

カ. 持続可能な運行体制の構築

- ・効率的で利用しやすい運行ができるよう、MaaS※や自動運転等、ICT活用策の研究・実証実験を検討します。
- ・運行ダイヤや自動運転バスの検討には、交通事業者の他に調査研究機関(大学等)とも連携します。
- ・持続的に運行できるよう、利用者ニーズ調査等により採算性や優先度を検討し、運行路線の絞り込みを行うとともに、適切な事業主体及び運行支援策を検討します。

※ MaaS…複数の交通手段を乗り継いで移動する際の検索・予約・決済をスマートフォン等で一括に行い、目的地までのシームレスな移動を支援する新たな移動の概念のこと。Mobility as a Serviceの略。

スケジュール

第1フェーズ						第2フェーズ			第3フェーズ		
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14~
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032~
				需要・採算性の検討【交通事業者】 2次交通の利用者ニーズ調査【市】							
					運行路線の絞り込み、運行計画の検討【交通事業者】 運行支援スキームの構築【市】						
								運行路線の決定 【交通事業者】			
									運行実施 利用状況を踏まえた見直し 【交通事業者】		
										運行支援の実行 必要に応じた見直し 【市】	
		ICT活用策の研究、実証実験等 【交通事業者】									
							ICT活用策の試行、提供、改善 【交通事業者】				

(2) タクシーサービスの充実

新幹線利用者の多様な移動ニーズに対応できるよう、IoTを活用した配車システムや外国人観光客にも対応したタクシーサービスの充実等により、利便性の向上を図ります。

課題と解決方策

課題	解決方策
外国人観光客等の利便性向上	●IoTを活用した配車システムの導入検討 ●外国人観光客に対応したコミュニケーションツール、決済手段、車両の導入
旅行者にとって安心でわかりやすい料金の仕組みが必要	●事前に運賃がわかる定額運賃の導入
タクシー事業者の乗務員不足	●乗合タクシーの検討

取組の概要

ア. IoTを活用した配車システムの導入

- ・個々の目的地に向かう利用者ニーズに応えられるよう、ドライバーと利用者のマッチングや、目的地が近い者同士をマッチングするIoTや配車アプリを活用できるシステムの導入を検討します。

イ. 外国人観光客にも対応したタクシーサービスの充実

- ・新駅から北後志地域等を周遊する観光タクシーの運行を検討します。
- ・市内をはじめ、キロロや余市等の近郊または遠方までの定額運賃の導入を検討します。
- ・観光客がスムーズに利用できるようなインターネットでの事前配車予約、電子マネーやスマホ決済等のキャッシュレス決済の導入(例:決済機能付きタブレット)、ICTを活用した外国人観光客との円滑なコミュニケーションツール(例:ポケットク)の導入を検討します。
- ・新幹線開業に伴い、本州やニセコエリアからの外国人観光客など、大きな荷物を抱えた観光客の増加が想定されるため、ユニバーサルデザインタクシーなど大荷物に対応できる車両の導入を検討します。

ウ. 乗合タクシーの検討

- ・乗合タクシーのニーズや採算性、乗務員不足の状況、バス事業者との協議を踏まえ、小樽駅や朝里川温泉等へ向かう交通手段として、また新駅と北後志地域等の各町村を結ぶシャトル便として、乗合タクシーの運行を検討します。
- ・運行に当たっては、支援策についても検討します。

スケジュール

第1フェーズ							第2フェーズ			第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
		配車システムやタクシーサービスの研究、実証実験等【交通事業者】									
							配車システムやタクシーサービスの試行、提供、改善【交通事業者】				
			需要・採算性の検討【交通事業者】 取組事例の収集【市】								
						運行計画の検討【交通事業者】 運行支援スキームの構築【市】					
							必要な車両、設備などの検討、導入【交通事業者】				
								運行実施 利用状況を踏まえた見直し【交通事業者】			
										運行支援の実行 必要に応じた見直し【市】	

(3) レンタカーサービスの充実

新幹線利用者が新駅から市内各地や北後志地域等へ自由に移動できるよう、新駅周辺へのレンタカー事業者の誘致やレンタカーでの周遊性向上に繋がるサービスについて取り組みます。

課題と解決方策

課題	解決方策
個人旅行の増加に伴うレンタカー需要への対応	● レンタカー事業者の誘致やそのための環境整備

取組の概要

ア. レンタカー事業者の誘致

- ・新駅におけるレンタカーの需要及び先行事例調査を踏まえ、新駅周辺にレンタカー事業者を誘致します。
- ・誘致にあたっては、需要状況に応じて、誘致する形態(深夜帯にも利用でき、かつ無人で対応可能なセルフレンタカー、駅舎内のカウンターの設置等)も検討します。
- ・事業用地の確保等、レンタカー事業者誘致のための環境整備を検討します。
- ・レンタカーを利用しやすいよう、駅からの動線や電気自動車の充電スポット、駐車スペースの確保等を検討します。

イ. レンタカーによる周遊性の向上

- ・市内や北後志地域の周遊性を高めるために、需要と採算性に応じて、レンタカー拠点の設置を検討します。
- ・レンタカーでの周遊性向上に繋がるような取組(例:観光施設等の特典サービスの提供、夜間割引サービス等)を検討します。
- ・市内中心部の駐車場の空き状況をリアルタイムに提供するなど、レンタカー利用者の利便性を図ります。

スケジュール

第1フェーズ							第2フェーズ			第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14~
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032~
		需要・採算性の検討【レンタカー事業者】 レンタカー事業者誘致のための環境整備【市】					レンタカー事業者の誘致【市】		レンタカー拠点の設置【レンタカー事業者】		
		周遊性向上のためのサービスの検討【レンタカー事業者等】					レンタカー拠点の稼働必要に応じて運用の見直し【レンタカー事業者】		周遊性向上のためのサービスの試行、提供、改善【レンタカー事業者等】		

(4) レンタサイクルの充実

新駅からまちを自由に散策できるよう、新駅周辺におけるレンタサイクル拠点の設置と身軽になって小樽市内の観光を楽しめるサービスの提供について検討します。

課題と解決策

課題	解決策
中心部から離れた新駅周辺でのレンタサイクル事業の可能性を見極めることが必要	●新駅周辺のレンタサイクル需要を踏まえた拠点の設置

取組の概要

ア. 可能性調査を踏まえたレンタサイクル拠点の設置

- ・新駅でのレンタサイクル事業の可能性を調査した上で、新駅周辺におけるレンタサイクル拠点を設置する事業者を募集します。

イ. 身軽になってサイクリングを楽しむことができるサービスの提供

- ・新駅から宿泊施設へ荷物を運ぶ宅配サービスの導入や、大型のロッカーや保冷機能が付いたロッカーの設置など、身軽になって観光を楽しむことができるサービスの提供を検討します。

スケジュール

第1フェーズ						第2フェーズ				第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
						レンタサイクルの可能性調査 【市】					
							レンタサイクル事業者の募集、選定 【市】				
								レンタサイクルの運営開始 【レンタサイクル事業者】			
							関連サービスの検討 【市ほか】				
									関連サービスの提供 【サービス提供事業者】		

(1) ICTを活用した新たなモビリティサービスの提供

2次交通利用者の更なる利便性の確保及び2次交通事業者の課題解消に向け、今後ますます普及が予想される新たなモビリティサービスの提供に向け、推進体制の構築や実証実験等を行うとともに、キャッシュレス決済の導入促進を図ります。

課題と解決策

課題	解決策
観光客等の利便性・周遊性の向上と 2次交通サービスの効率化	●観光型MaaS [※] 等の新たなモビリティサービスの提供

取組の概要

ア. 観光型MaaS等の新たなモビリティサービスの提供

- ・複数の公共交通機関を乗り継ぐ場合などの利便性と周遊性の向上を図る、観光型MaaSなどのアプリサービス実証実験や配信を検討します。
- ・新たなモビリティサービスの検討にあたっては、検討内容に応じた推進体制の構築を検討します。

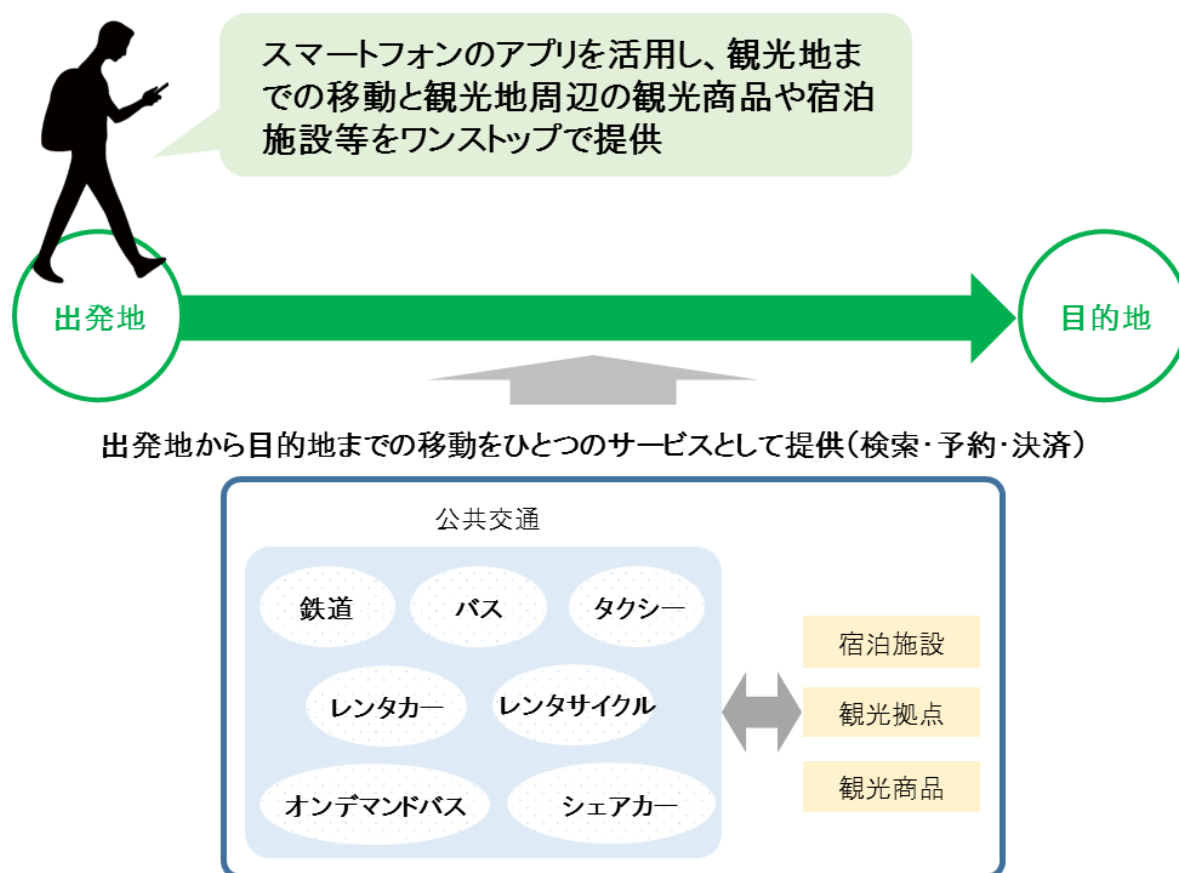
イ. 交通・観光関連事業者のキャッシュレス決済の導入促進

- ・キャッシュレス決済が定着している外国人観光客への対応力向上や観光型MaaSを広く展開できるよう、交通・観光関連事業者のキャッシュレス決済の導入促進を図ります。

スケジュール

第1フェーズ							第2フェーズ			第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
推進体制の検討、構築 【市、交通事業者】											
	MaaS等の研究、実証実験等 【市、交通事業者】										
							サービスの試行、提供 利用状況を踏まえた改善 【交通事業者】				

※観光型MaaSとは



（２） 広域連携を強化する体制の構築

新駅から北後志地域などへの周遊性を高めるとともに、周辺自治体住民の新駅へのアクセス向上を図るため、広域連携を強化する組織を構築し、利用促進に向けた2次交通サービスの提供や情報発信に関する協議を行います。

課題と解決方策

課題	解決方策
新駅を起点とした広域観光や周辺自治体住民の新幹線利用を促進するため、広域で連携して2次交通の利便性向上に取り組むことが必要	●2次交通に関する広域連携の組織づくりと広域のサービス提供

取組の概要

ア. 広域連携を強化する組織づくり

- ・新駅を起点に周辺自治体を周遊する観光客や周辺自治体の住民を対象に、利便性の高い2次交通を提供できるよう、周辺自治体や事業者等で構成する広域連携組織を構築し、具体的な取組を検討します。
- ・広域連携組織においては、小樽を含めた北後志地域等を周遊できる1日フリーパスの導入についての協議など、利用促進に向けたサービスや、地域が連携した移動手段の情報発信・PRの検討等を行います。

スケジュール

第1フェーズ							第2フェーズ			第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
広域連携組織の構築 【周辺自治体、観光協会】											
					サービス等の提供に向けた協議 【広域連携組織、交通事業者】						
					サービス等の展開 【広域連携組織、交通事業者】						

(3) 新駅の交通結節点機能の向上

新駅と2次交通との乗り継ぎ利便性を確保するため、関係機関と連携して、駅及び駅附帯施設の機能確保に取り組むとともに、安全で利便性の高い駅前広場及び駐車場の整備を行います。

課題と解決策

課題	解決策
新駅の立地特性やニーズ等を踏まえ、交通結節点機能の向上	●整備主体に対する要望 ●各整備主体の連携による、必要な機能の導入

取組の概要

ア. 利便性の高い駅機能の確保

- ・駅施設についての要望(例:新駅からバス・タクシーへ円滑に乗り継ぎすることができるよう、分かりやすい動線計画ときめ細かなサインの設置や、快適なトイレの設置など)をまとめ、整備主体へ要望します。
- ・駅の附帯施設について、必要な機能を絞り込むとともに、整備手法について検討します。(例:観光案内、物販施設、団体の待合やイベント等の多目的スペース、大型ロッカー、2次交通情報等を表示するデジタルサイネージなど)
- ・大雪や台風といった災害の影響による公共交通機関の遅延・運休等の情報提供の方法について検討します。

イ. 駅前広場等の整備

- ・乗り継ぎ機能や安全性、利便性に十分配慮した、駅前広場、駐車場、多目的広場の整備を行います。
- ・駐車場には、新駅を利用する修学旅行生や団体型観光ツアーへの対応に向け、団体バス乗り場の確保を行います。

スケジュール

第1フェーズ							第2フェーズ			第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14~
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032~
駅部建築等に関する協議 【鉄道・運輸機構、JR、市】											
駅施設についての要望 【協議会】											
					駅部建築等の設計、工事 【鉄道・運輸機構】						
					駅附帯施設に関する検討、整備 【市ほか】						
駅前広場等の整備に関する協議 【道、市】											
					駅前広場等の設計、工事 【道、市】						

附帯施設の例(イメージ)

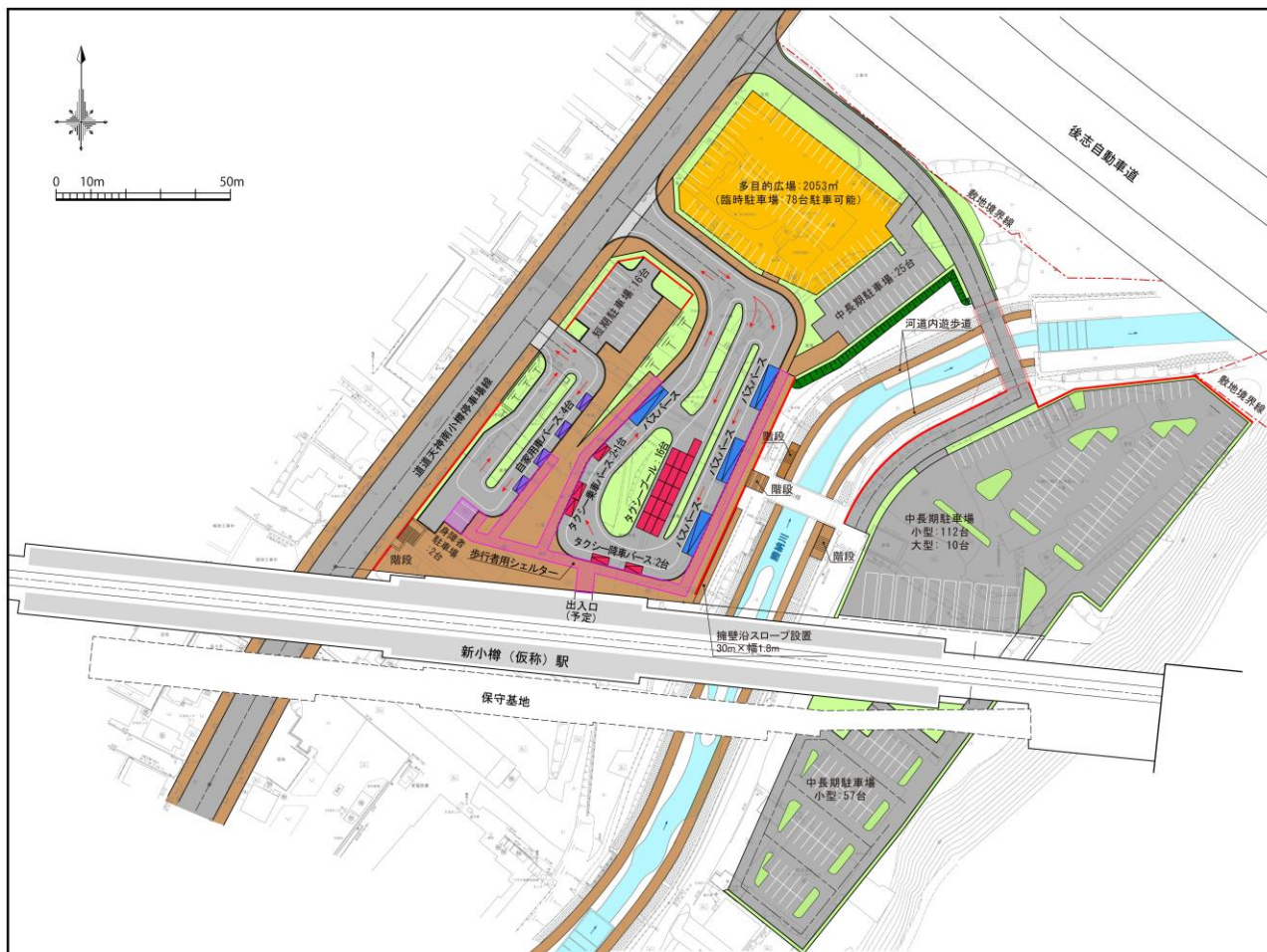


駅舎内の物販施設(無人店舗)
 (山手線 目白駅)



バスの運行情報を表示するデジタルサイネージ
 (北陸新幹線 飯山駅)

駅前広場等のレイアウト図



※この図面は、確定したものではありません。今後、関係機関との協議で、変更する可能性があります。

(4) 移動円滑化の取組の推進

市内全体で2次交通の利便性を高め、円滑に移動できるよう、乗り継ぎ拠点の設定やMaaS・IoTの活用など、バスやタクシーを利用しやすい環境づくりを進めます。

課題と解決策

課題	解決策
新駅の立地上、乗り入れるバス路線は限られることが想定される	●バスの利便性を高めるための乗り継ぎ利便性の向上
個別の様々な移動ニーズに応えられるよう、タクシーの利便性を高めることが必要	●ドライバーと利用者のマッチングのためのシステム導入

取組の概要

ア. バスの利便性向上の環境整備

- ・既存バス路線における乗り継ぎ拠点の設定や待合所の整備、MaaSやバスロケーションシステム※の活用など、バスを利用しやすい環境づくりを検討します。
- ・乗り継ぎ拠点は、奥沢十字街のほか、鉄道との接続も考慮した南小樽駅・小樽築港駅近辺を想定します。

※ バスロケーションシステム…GPS等を用いてバスの位置情報を収集し、バス停の表示板や携帯電話、パソコンに情報を提供するシステム。

イ. タクシーの利便性向上の環境整備

- ・様々な場所から、言語の垣根なくタクシーを円滑に利用できるよう、ドライバーと利用者のマッチングや、目的地が近い者同士をマッチングするIoTや配車アプリを活用できるシステムの導入を検討します。(一部再掲)

ウ. ユニバーサルデザイン等の導入の推進

- ・公共施設をはじめ、各鉄道駅やバス待合所、観光施設など、まち全体でユニバーサルデザイン※の導入を推進します。
- ・低床車両バスの導入を推進します。

※ ユニバーサルデザイン…年齢や障がいの有無、性別、国籍等に関わらず、できるだけ多くの人にわかりやすく、使いやすいように工夫された建物や空間等のデザインのこと。

スケジュール

第1フェーズ							第2フェーズ			第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
					乗り継ぎ拠点の検討、設定 【交通事業者、市】						
							システムなどの検討、導入、稼働 【交通事業者】				
				ユニバーサルデザイン等の導入の推進 【施設管理者、交通事業者】							

(1) 情報発信の強化

公共交通の利用促進を図るため、SNSやHP等の電子媒体を活用した分かりやすい情報発信を行います。また、外国人観光客を含む小樽市への来訪者が新駅や目的地まで円滑に移動できるよう、視覚的にわかりやすく、小樽らしいデザインで統一された案内やサインを設置します。

課題と解決方策

課題	解決方策
情報発信ツールの紙媒体から電子媒体への移行	● SNSやHP等の電子媒体を活用した情報発信
外国人観光客を含む来訪者が目的地まで移動しやすいような案内や誘導が必要	● 小樽らしいデザインでの案内やサインの整備、デザインの統一 ● 小樽市のイメージや新駅のデザインを合わせる

取組の概要

ア. 積極的な情報発信・PR

- ・公共交通の持続的な運行に向けては、市民や観光客等に対し、分かりやすく情報を発信します。
- ・北後志地域等との広域交通を含め、市内バス路線等の2次交通の路線図や時刻表、目的地となる主要な観光施設等も記載された、Webページの作成、タブレットやスマートフォンに対応した情報発信、多言語表示への対応を検討します。

イ. 新駅に向かう案内・サインの設置

- ・各種交通結節点(JR駅、インターチェンジ、港)や市内各観光地、札幌方面、北後志地域等から、新駅へ向かうルート上において、新駅までの案内標識やサインの設置を各管理者へ要望します。

ウ. 外国人対応の強化

- ・新駅開業後に増加が予想される外国人観光客が円滑に目的地まで移動できるよう、案内やサイン、路線図・時刻表などの多言語化を進めます。案内やサインは、小樽らしいデザインとして整合を図り、視覚的にわかりやすいよう配慮します。
- ・運転手の外国語対応の強化(例:指差し会話ツールやポケットクの導入)を行います。(一部再掲)

スケジュール

第1フェーズ						第2フェーズ				第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
						情報提供の検討、準備 【観光協会、広域的な連携組織】					
									情報発信、改善 【観光協会、広域的な連携組織】		
			外国人対応の強化検討 【交通事業者、市】								
										外国人対応の実施、改善 【交通事業者】	
						多言語表示の案内・サインの設置 【各管理者】					

案内やサインの例(イメージ)



案内標識



誘導標識

(2) 公共交通の利用を促進するサービスの提供と魅力づけ

公共交通の利用を促進するため、新駅利用者が身軽になって観光を楽しめるサービスや、観光施設と公共交通が連携したフリーパス導入の検討等を行います。また、沿線地域との周遊やクルーズ船等との連携など、公共交通の利用を伴う新駅利用者の拡大を図ります。

課題と解決策

課題	解決策
公共交通の持続的な運行と充実を図るため、需要の確保が必要	● 新駅利用者の周遊性を高めるサービスなどによる公共交通の利用促進 ● 公共交通の利用を伴う新駅利用者の拡大

取組の概要

ア. 身軽になって観光を楽しむことができるサービスの提供

- ・新駅から宿泊施設へ荷物を運ぶ宅配サービスの導入や、大型のロッカーや保冷機能が付いたロッカーの設置など、身軽になって観光を楽しむことができるサービスの提供を検討します。(再掲)

イ. 新駅と倶知安の周遊性を高めるサービスの検討

- ・新駅と倶知安駅間の連携を強化し、それぞれの市町に来訪・滞在している観光客が新幹線で気軽に往来でき、両地域の取組が相乗効果を生みだすことができるよう、周遊性を高める乗車券・料金サービスの提供など、利便性を高めるサービスの導入(例:新幹線とタクシーを活用した昼食プラン等)を検討します。

ウ. クルーズ船等との連携

- ・小樽港に寄港したクルーズ船の乗客を対象に、寄港時の自由時間に新幹線を活用したニセコや札幌方面へのオプションルツアーを造成し、寄港地としての魅力増大を図ります。
- ・小樽発着のクルーズ船やフェリーと新幹線を組み合わせたツアー(レール&クルーズ)を検討します。
- ・これらの船舶と新幹線の乗り継ぎ利便性を高められるよう、ニーズに応じた連絡交通手段及び情報周知方法を検討します。

エ. 地域連携等による魅力的なサービスの提供

- ・観光施設等と公共交通が連携し、バスチケットと観光施設の特典や入場料金の割引が一体となったバスパックの販売を検討します。
- ・観光施設の割引クーポンがついた、小樽市内や周辺自治体で使えるフリーパスの導入などを検討します。
- ・朝里川温泉と近郊の温泉エリアを含めたサービス(例:朝里川温泉と定山溪温泉などを巡るお得な湯めぐりクーポン)を検討します。
- ・札幌市の滞在者を対象としたサービス(例:観光施設の特典等)の提供について検討します。

オ. 魅力ある車両の導入

- ・魅力ある車両(例:レトロバスやラッピングバス等)の導入による、乗ること自体の魅力づけを検討します。

スケジュール

第1フェーズ							第2フェーズ			第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
					取組事例の収集 【市】						
						サービスやオプションツアーの検討 【交通事業者、旅行会社ほか】					
							車両導入の検討 【交通事業者】				
								サービス等の提供、改善 【交通事業者、旅行会社ほか】			

(3) 新駅周辺の魅力づくり

周辺の豊かな自然環境と調和し、新駅に降り立った人に、ノスタルジックな風景が残る小樽のまちを感じてもらえる駅舎や駅前のデザイン検討、新駅周辺の景観形成を図ります。また、新駅の立地特性を生かすため、勝納川を活用した魅力づくりを検討します。

課題と解決方策

課題	解決方策
小樽のまちのイメージと一体となった新駅とするためには、ノスタルジックな風景が残る小樽市ならではの特色にあった景観にすることが必要	●小樽市のまちなみや歴史に調和した景観づくり

取組の概要

ア. 小樽のまちのイメージが伝わる駅舎や駅前デザインの検討

- ・駅舎デザインの協議体制を構築するとともに、まちづくり計画のデザイン方針に基づいた駅舎デザインとなるよう取り組みます。
- ・来訪者の小樽の街並みの第一印象となる、駅前広場や道道天神南小樽停車場線の良好な景観形成について、整備主体へ要望します。

イ. 自然の豊かさや四季の移り変わりをを感じる景観形成

- ・中心市街地や、新駅周辺地域から各観光スポットへ向かう際のアクセスルートにおいて、市民や市内の事業者が協働して、花と緑の空間づくり(例：オープンガーデンの取組の検討、プランター設置)、アートイベントの実施、市内の各種イベントとの連携(例：季節性を感じられるタペストリーの設置)について検討し、自然の豊かさや四季の移り変わりをを感じる景観形成を図ります。

ウ. 新駅の立地特性を生かした魅力づくり

- ・新駅利用者が気軽に自然に親しめるよう、勝納川の親水機能の整備及び駅前広場との接続について要望をまとめ、整備主体へ要望します。

スケジュール

第1フェーズ							第2フェーズ		第3フェーズ		
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
駅舎デザインの検討・選定 【市、鉄道・運輸機構】											
道道等の整備に関する協議 【道、市】											
					道道等の設計、工事 【道】						
								市民協働による景観形成 【市、市民等】			

駅舎デザインの方針（出典:まちづくり計画）

【デザイン方針】

歴史
・文化

○歴史的蓄積を持つ小樽の象徴として風格、懐かしさが感じられる空間

自然
・都市

○多様な人々を迎え、期待感を高める玄関口として明るさ、開放感が感じられる空間
○自然豊かな周辺環境と調和した、落ち着いたある快適な空間

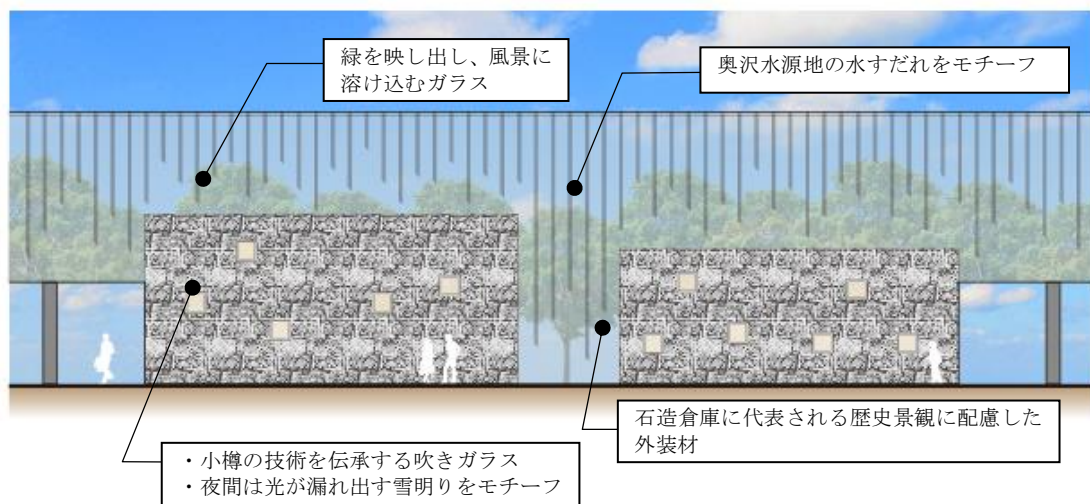
生活
・活動

○地域住民が愛着を持てる居場所としての温もり、心地よさが感じられる空間
○ユニバーサルデザインによる、全ての人が利用しやすく、安全で快適な空間

【デザイン参考例】

コンセプト例

「人と歴史を未来につなぐ架け橋」



(4) 移住・定住の促進

新駅開業の機会を捉えた定住人口の確保と新駅の利用者増加の好循環を生み出せるよう、新駅周辺地域の住宅の整備促進を図るとともに、新幹線通勤・通学者の利用増加に向けた取組など、ターゲットを絞った移住・定住促進策を行います。

課題と解決方策

課題	解決方策
新幹線開業によって向上する通勤・通学の利便性を生かしたまちづくりが必要	● 新駅周辺における住宅の整備促進 ● 通勤・通学利便性の向上
交通事業者の人材確保の困難、労働力の流出を防ぐことが必要	● 交通事業者の人材確保を兼ねた移住・定住促進策

取組の概要

ア. 新駅周辺における住宅の整備促進

- ・新幹線を利用しやすい新駅周辺地域における定住人口確保のため、公営住宅の整備やマンションの誘致を検討するとともに、増加が予想される空き家・空き地の活用促進を図ります。

イ. 新幹線通勤・通学者の利用増加に向けた取組

- ・札幌への通勤・通学及び新幹線開業を契機とした新たな企業進出に伴う通勤を考慮した新幹線ダイヤの設定について、JR北海道へ要望します。
- ・新幹線を活用した通勤・通学者を増やすために、通勤・通学の定期代補助制度を検討します。
- ・札幌市や倶知安町へのアクセスしやすい立地特性と小樽の居住環境の魅力を活かした、移住希望者の誘致を行います。
- ・新幹線通勤・通学者の利用を想定したパークアンドライド駐車場の活用や新駅周辺の民間月極駐車場の誘導を検討します。
- ・地域住民の新幹線通勤を想定した朝夕に絞ったバス路線およびダイヤを検討します。(再掲)

ウ. 交通事業者の人材確保を兼ねた移住・定住促進策

- ・2次交通を支える交通事業者の人材確保を兼ねた移住・定住促進策(企業PR、職種を絞った移住支援金、労働環境改善策の研究など)について検討します。

スケジュール

第1フェーズ						第2フェーズ				第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
公営住宅等誘致の検討及び空き家等の調査 【市】											
						新幹線ダイヤについての要望 【市】					
						新幹線開業を生かした移住・定住促進策の検討・実施 【市、不動産所有者など】					

ソフト対策

ソフト対策では、4つの基本方針(新幹線開業を契機とした個人観光客の誘致拡大、新幹線開業を地域の活力に繋げる取組、新駅周辺の魅力づくり、開業気運の醸成)に基づき、26の取組を行います。

○基本方針1 新幹線開業を契機とした個人観光客の誘致拡大

新駅開業により増加が見込まれる個人観光客向けの観光プログラムや旅行商品等を検討するとともに、地域連携や電子媒体の活用による効果的な情報発信を行います。

○基本方針2 新幹線開業を地域の活力に繋げる取組

新幹線の開業効果を地域に広げるため、滞在時間の延長と宿泊客拡大に向けた観光資源の磨き上げや、地域産業と観光の結びつきの強化、中小事業者の外国人観光客への対応力強化等に取り組めます。また、新幹線開業を契機とした企業立地の促進を図ります。

○基本方針3 新駅周辺の魅力づくり

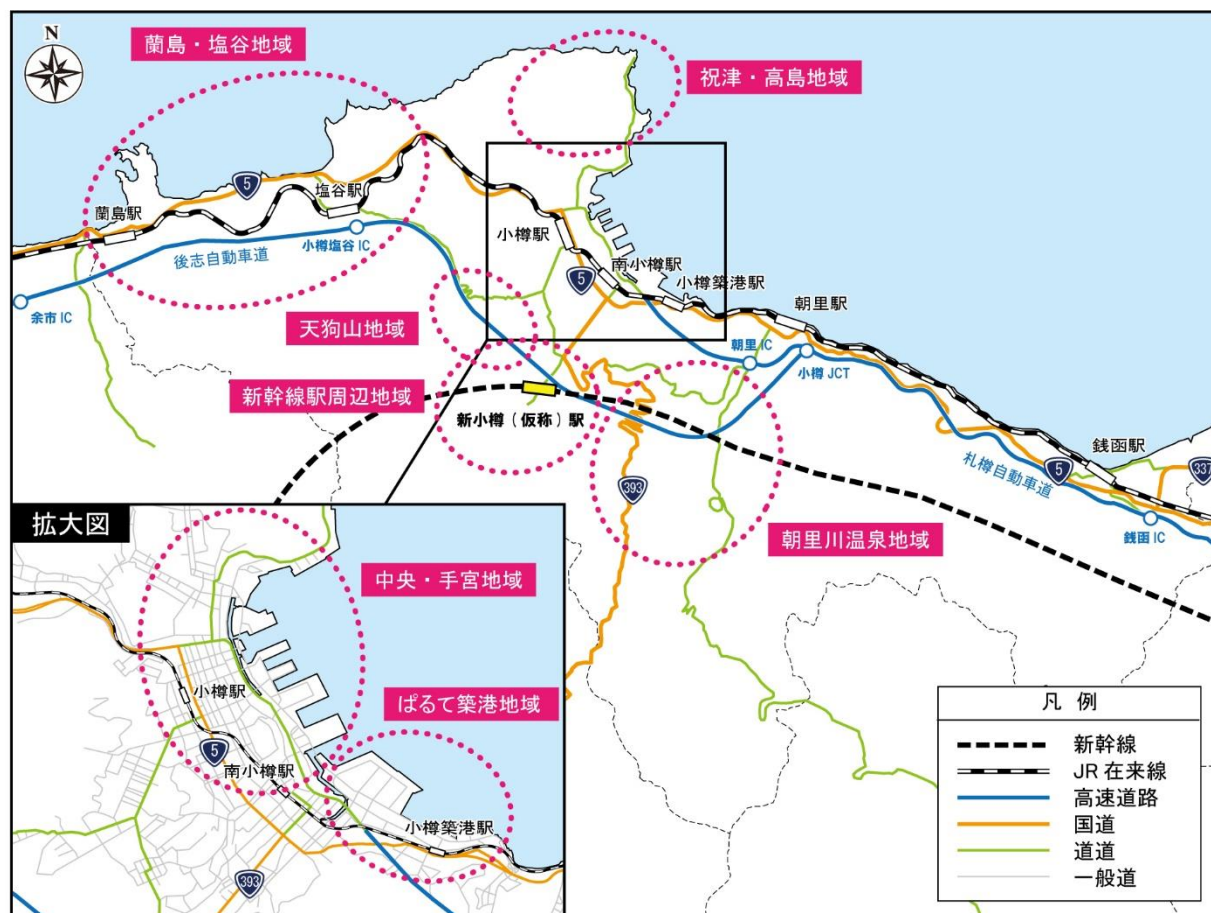
新駅周辺の地域資源を活かした新たなまちの魅力づくりとして、奥沢水源地とその周辺の自然環境を活用した観光プログラムの開発や、新駅からアクセスしやすい観光資源と連携した観光プログラムの検討を行います。

○基本方針4 開業気運の醸成

新幹線の開業効果を地域全体に広げるため、市民の開業気運の醸成や利用促進を図るとともに、広域連携による開業前後のイベント開催等を行います。

基本方針	項目	取組の概要
1. 新幹線開業を契機とした個人観光客の誘致拡大	(1)小樽の文化・食資源を活用した多彩な個人観光客向けプログラムの開発	ア. 東北圏や青函圏等と連携した旅行商品の開発
		イ. 北後志地域と連携した個人観光客向けプログラムの開発
		ウ. 倶知安・ニセコと連携した個人観光客向けプログラムの開発
		エ. 小樽市内の歴史や文化資源、自然資源を広く活用した観光プログラムの開発
		オ. 新幹線と他の広域交通を組み合わせた旅行商品の開発
	(2)地域連携や電子媒体の活用等による効果的な情報発信	ア. 北海道新幹線停車駅のある自治体との連携体制の構築
		イ. 地域連携による旅行商品等の幅広いPR
		ウ. SNSやHP等の電子媒体を活用した情報発信
2. 新幹線開業を地域の活力に繋げる取組	(1)滞在時間・宿泊客の拡大を目指した取組	ア. 宿泊客拡大に向けた取組
		イ. 観光目的の多様化を踏まえた市内全域をフィールドとした観光資源の磨き上げ
	(2)小樽の地域産業と観光産業の結びつき強化	ア. 小樽産食材の活用促進
		イ. 小樽ならではの産業観光の推進
		ウ. 地域特性を生かした新幹線車内で味わえる商品の開発
		エ. 開業記念グッズの製作
	(3)観光入込の季節間の平準化に向けた取組推進	ア. 観光入込の季節間の平準化に向けた各種取組
	(4)中小事業者を中心とした外国人観光客への対応力強化	ア. 中小事業者を対象とした外国人観光客への対応力強化
	(5)企業立地の促進	ア. 新駅周辺における民間機能の誘導
		イ. 新幹線開業を契機とした企業立地ニーズへの対応
3. 新駅周辺の魅力づくり	(1)新駅を起点とした新たな観光プログラムの創造	ア. 奥沢水源地と勝納川環境整備
		イ. 奥沢水源地や周辺の自然環境を活用した観光ガイドプログラムの開発
		ウ. 奥沢周辺の観光資源との連携
4. 開業気運の醸成	(1)新幹線開業に向けた市民の意識醸成と利用促進	ア. 市民の新幹線開業気運を高めるイベントの実施
		イ. 開業までのカウントダウン
		ウ. 市民等の新幹線利用の促進
	(2)開業気運を高めるイベントの実施	ア. 北海道新幹線停車駅のある自治体や北後志地域が連携した開業イベントの実施
		イ. 開業後のイベント実施

小樽市内の観光エリアの位置



(1) 小樽の文化・食資源を活用した多彩な個人観光客向けプログラムの開発

新駅開業により増加が見込まれる観光客(シニア層、外国人観光客)を意識した、個人観光客向けの商品開発を検討します。また、新幹線開業により東北や道南まで移動時間が短縮されることから、東北新幹線の沿線自治体と連携した旅行商品の検討も行います。

課題と解決策

課題	解決策
新幹線開業により、より一層個人観光客の比率が増加することが予想される	● 新幹線開業後に増加が見込まれる顧客層(シニア層、外国人観光客)を意識した商品開発の検討
新駅は広域的な周遊客の拠点になることが想定される	● 広域連携による旅行商品の開発等
観光市場の構造変化に対応していくとともに、小樽運河や堺町に集中する観光客を分散することが必要	● 小樽市内の歴史・文化資源を活用した個人客向け観光の推進 ● 市内全域をフィールドとした観光振興の推進

取組の概要

ア. 東北圏や青函圏等と連携した旅行商品の開発

- ・ 新駅の開業に伴い、本州からの観光客の増加が考えられます。特に、東北ー北海道の移動時間が短縮されることから、東北新幹線の沿線自治体と連携した旅行商品(例:小樽・塩釜寿司のまち周遊プラン等)の開発を検討します。
- ・ 平成 30 年に北前船寄港地・船主集落が日本遺産に追加認定されていることから、連携地域の南北海道(函館市・松前町・江差町)と連携した、新幹線や在来線を活用した北前船の旅行商品の開発を検討します。
- ・ 日本遺産に認定されている炭鉄港について、道内で認定されている室蘭市、夕張市、岩見沢市等と連携した炭鉄港を巡る旅行商品についても検討します。

イ. 北後志地域と連携した個人観光客向けプログラムの開発

- ・ 新駅を起点として、駅勢圏のエリアが連携して個人観光客をターゲットとした各種取組を進めていきます。具体的には、北後志地域が広域的に連携し、新駅を起点とし、小樽市や余市、積丹、キロロ等の北後志地域の特色を活かした観光プログラム(例:ワイナリーやウイスキー工場、果樹園、観光船などを活用したツアーやカヌー、登山、トレッキングなど、地域の資源を活用した着地型旅行商品)を開発します。
- ・ 商品の開発・プロモーションにあたっては、新駅の利便性を広く PR するために、国内外のインフルエンサー^{※1}を招聘したファムツアー^{※2}やプログラムの改善等を進めます。

※1 インフルエンサー…SNS 等を通じた情報発信により、他人の行動へ大きな影響を与える人物の総称

※2 ファムツアー…観光客の誘致促進を目的に、海外の旅行会社やメディア関係者等を現地に招待し、地域の魅力を実際に見て体験してもらうツアー

ウ. 倶知安・ニセコと連携した個人観光客向けプログラムの開発

- ・ 倶知安町やニセコに訪れる個人観光客を対象に、小樽市で昼食または夕食を食べられるような観光プログラムを検討します。

- ・ 運河周辺エリアに集中する観光客の流れを市内全体へ分散させるとともに、長期間市内に滞在できるような小樽の市域全体を舞台とした地域文化・自然資源を活用した小樽ならではの商品プログラムの開発(例:市内全域に広がる歴史的建造物を巡るプログラムの開発、オタモイ海岸～祝津海岸を巡る海岸自然探索プログラム等)を検討します。
- ・ 多様な商品プログラムの開発だけでなく、流通・持続させるための仕掛け(長崎さるく博のような短期集中型イベント、個人客を意識したSNS中心のPR戦略、ゲストハウスを起点とした着地型商品の販売戦略等)についても検討します。

- ・小樽港に寄港したクルーズ船の乗客を対象に、寄港時の自由時間に新幹線を活用したニセコや札幌方面へのオプションルツアーを造成し、寄港地としての魅力増大を図ります。(再掲)
- ・小樽発着のクルーズ船やフェリーと新幹線を組み合わせたツアー(レール&クルーズ)を検討します。(再掲)
- ・本州方面からの小樽市までの移動手段として、新幹線と飛行機を組み合わせるケースも考えられます(例:行きは新千歳空港または函館空港とJRを使い、帰りは新幹線のみを使う)。このため、多様な空港の組み合わせによる旅行商品の開発を検討します。

第1フェーズ					第2フェーズ					第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
					旅行商品の検討、開発 【広域連携組織、観光協会、旅行事業者】						
					旅行商品の モニターツアーの実施 【広域連携組織、観光協会、旅行事業者】						
					旅行商品の改善 【広域連携組織、観光協会、旅行事業者】						

(2) 地域連携や電子媒体の活用等による効果的な情報発信

北関東や東北方面、外国人観光客を呼び込むために、北海道新幹線停車駅のある自治体が一体となってPRを行う体制を構築するとともに、SNS や HP 等の電子媒体を活用して旅行商品や観光プログラムの情報を幅広く発信します。

課題と解決方策

課題	解決方策
新たな観光客を誘客するには、小樽市単独ではなく、北海道新幹線停車駅のある自治体(札幌市や倶知安町等)との連携が必要	● 北海道新幹線近隣駅との連携体制の構築
情報発信ツールの紙媒体から電子媒体への移行	● SNSやHP等の電子媒体を活用した情報発信

取組の概要

ア. 北海道新幹線停車駅のある自治体との連携体制の構築

- ・北関東、東北方面からの観光客や海外の観光客を呼び込むために、北海道新幹線停車駅のある自治体(札幌市や倶知安町等)が一体化してPRを行う体制を構築します。

イ. 地域連携による旅行商品等の幅広いPR

- ・上記の体制により、基本方針1(1)の取組で検討した旅行商品等について、北関東、東北方面に対するPRのほか、海外旅行博といった海外向けのイベントへの出展など、幅広いPRを検討します。
- ・PRを進める際、情報受信者に小樽らしさを思い浮かべてもらえるよう、統一化したロゴや配色等を検討します。

ウ. SNSやHP等の電子媒体を活用した情報発信

- ・近年の個人観光旅行客の行動変化を踏まえ、積極的なSNSやHP等の電子媒体を中心とした情報発信戦略を推進します。
- ・観光需要の急変など不測の事態に備え、状況に応じたPRを行えるような動画等のコンテンツの作成を検討します。
- ・多言語での観光情報の提供も積極的に進めるとともに、来訪者の情報収集環境を向上させるため、観光地や飲食施設でのフリーWi-Fiの整備を進めていきます。

スケジュール

第1フェーズ						第2フェーズ			第3フェーズ		
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
			北海道新幹線停車駅のある自治体との連携構築 【市、観光協会、札幌市や倶知安町等】								
							旅行商品や観光向けプログラムのPF 【広域連携組織、観光協会】				
							情報発信の方法の決定 【観光協会等】				
								情報発信の方法の試行 【観光協会等】			
									継続的な情報発信 【観光協会等】		
					フリーWi-Fiの整備 【地域内の事業者】						

(1) 滞在時間・宿泊客の拡大を目指した取組

新幹線開業を契機に観光消費の一層の拡大を図るため、宿泊客拡大に向けた取組や小樽市内での滞在時間を延ばすための市内各地の観光資源の磨き上げを検討します。

課題と解決策

課題	解決策
観光客の増加を市内の経済の活性化や雇用創出につなげることが必要	●消費単価の高い宿泊客の拡大を目指した取組の推進
一層の観光振興のためには滞在時間の延長が必要	●小樽市内全域を周遊できるような観光資源の磨き上げ

取組の概要

ア. 宿泊客拡大に向けた取組

- ・新幹線の開業効果を最大限に生かすため、日帰り客と比較して消費額が多い宿泊客拡大に向けた取組を進めていきます。具体的には、歴史的建造物等を活用したリノベーションによる宿泊施設の整備やゲストハウス開業の支援、深夜や早朝の観光プログラム(例:早朝の漁港見学ツアー、レトロ酒場巡りなど)、冬期のスキー客向けの滞在拠点づくり、新幹線を活用した教育旅行の誘致促進などについて検討します。
- ・朝里川温泉について、宿泊拠点としての滞在力強化に向けた取組を検討します。

イ. 観光目的の多様化を踏まえた市内全域をフィールドとした観光資源の磨き上げ

- ・小樽運河周辺に集中する観光客を分散するとともに、小樽での滞在時間を延ばすため、市内各地の観光資源の磨き上げを検討します。具体的には、小樽の特色のある産業群をテーマにした産業観光の深化について検討するとともに、小樽の食文化を見える化するための取組(例:小樽フェノロジーカレンダー(食の歳時記)づくりなど)、小説・マンガ・映画などの各種ロケ地等の聖地巡礼のためのマップづくりなどを検討します。
- ・小樽市内のマリーナやマリンスポーツを活用した観光プログラムについても検討します。

スケジュール

第1フェーズ							第2フェーズ			第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
宿泊客拡大に向けた方針検討 【宿泊事業者、観光事業者】											
				宿泊客拡大に向けた具体的な取組の展開 【宿泊事業者、観光事業者】							
				市内各地の観光資源の磨き上げ 【観光協会、観光事業者】							

(2) 小樽の地域産業と観光産業の結びつき強化

新幹線開業により、北海道の食を求めた本州または外国人観光客の来訪が予想されることから、小樽産の食材を活用したテイクアウトグルメの開発や水産物の旬と合わせたキャンペーンの展開等を検討します。また、新幹線車内で気軽に小樽の食を楽しめるような商品開発の検討や開業記念グッズの制作についても検討します。

課題と解決方策

課題	解決方策
観光の効果を市内の多様な産業群に波及させることが必要	● 水産業や水産加工業、製造業など市内に集積する多様な産業群の観光との結びつき強化促進
観光の認知度を小樽市としてのブランド力向上に活かすことが必要	● 海外への展開も踏まえた市内産業の認知度の向上促進

取組の概要

ア. 小樽産食材の活用促進

- ・ 小樽市内で水揚げされる水産物や市内で加工される食品を観光需要と積極的に結びつけます。
- ・ 市内の水産物の旬と合わせたキャンペーンの展開を図るほか、小樽産の水産練り製品を活用したテイクアウトグルメの開発などを検討していきます。
- ・ また、餅店や菓子製造など小樽の歴史や文化をバックグラウンドとした業態について、積極的なPR展開を図ることによって新たな観光資源化を進めていきます。

イ. 小樽ならではの産業観光の推進

- ・ 伝統的な産業を観光需要に結びつけたガラス産業をモデルに、小樽市内に集積している多様な産業群を活用した産業観光を推進します。

ウ. 地域特性を生かした新幹線車内で味わえる商品の開発

- ・ 地域の食資源を生かした魅力ある商品開発(例: 地元の食材を使用した「おもてなし弁当」、「小樽スイーツセット」や「ちよい飲みセット」の開発)を推進します。
- ・ 小樽訪問時に体験した食や商品等を帰宅後にも継続して購入してもらえるような仕掛けづくりを検討します。

エ. 開業記念グッズの製作

- ・ 小樽のものづくりの技術を生かした開業記念グッズなどの製作や、地域の産業に結び付いた土産品の可能性についても検討します。

スケジュール

第1フェーズ							第2フェーズ			第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
小樽産食材の活用と産業観光の方針検討 【各事業者】											
			小樽産食材の活用と産業観光の具体的な取組の展開 【各事業者】								
					地域特性を生かした商品開発の検討 【各事業者】						
									商品の製作、販売 【各事業者】		

(3) 観光入込の季節間の平準化に向けた取組推進

閑散期に観光客を呼び込める取組を進めることで、新駅開業に伴う観光客の入込の平準化を図り、地域の安定的な雇用や観光事業者の収益性の向上に繋がります。

課題と解決方策

課題	解決方策
魅力ある観光産業づくりに向けて一層の収益力の強化や生産性の向上が必要	● 季節変動の平準化を進め、安定的な雇用の実現や生産性向上を推進

取組の概要

ア. 観光入込の季節間の平準化に向けた各種取組

- ・観光従事者の雇用安定化や観光事業者の収益性の向上を目指し、観光入込の平準化に向けた各種取組を推進します。具体的には入込が落ち込む時期(春季・秋季)において、小樽や北後志の旬の味をテーマにしたキャンペーンを進めます。
- ・季節間の平準化に向け、需要の少ない閑散期に多くの集客をもたらすような取組を検討します(例:博物館や文学館と連携した取組等)。

スケジュール

第1フェーズ							第2フェーズ			第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
観光入込の季節間の平準化に向けた取組み方針検討 【観光協会、観光事業者】											
			観光入込の季節間の平準化に向けた具体的な取組の展開 【観光協会、観光事業者】								

(4) 中小事業者を中心とした外国人観光客への対応力強化

本アクションプランに挙げた取組の推進により、運河周辺エリアに集中する観光客の流れを市内全体に分散させることで、これまで外国人観光客が訪れていなかった場所にも外国人観光客が来ることが考えられます。このため、小樽市内での中小事業者の外国人観光客の対応状況を把握した上で、インバウンド需要を取り入れられるような各種支援を行います。

課題と解決策

課題	解決策
外国人観光客の来訪先が主要観光地だけでなく、個人事業の飲食店等、幅広くなる可能性がある	● 中小事業者を対象とした外国人観光客への対応力強化

取組の概要

ア. 中小事業者を対象とした外国人観光客への対応力強化

- ・市内の中小事業者における外国人観光客の対応状況(決済方法や多言語対応等)を把握した上で、インバウンド需要を積極的に取り入れるための各種支援を強化します。具体的には、決済手段の多様化への支援のほか、多言語対応のための指差し会話集の作成・配布、コミュニケーションツール(例:ポケットク)の導入、おもてなし講習会の開催などについて検討します。

スケジュール

第1フェーズ							第2フェーズ			第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
重点的な対象事業者を選定し、徐々に外国人観光客への対応を拡大する 【中小事業者等】											

(5) 企業立地の促進

新駅に必要な民間の機能誘導を図るほか、新幹線開業を契機とした企業立地を促進し、市内経済の活性化を図るため、ニーズに応じた企業立地支援策を検討します。

課題と解決方策

課題	解決方策
新幹線開業により市外の企業が進出する可能性がある	● ニーズに応じた企業立地支援策の検討

取組の概要

ア. 新駅周辺における民間機能の誘導

- ・ 利便機能誘導ゾーン(資料1(P.44)を参照)等における空き地など土地情報の収集や、高架下の活用など事業用地の確保を検討します。
- ・ レンタカーなど、新幹線利用者の利便性向上に必要な、優先的に誘導すべき機能(業種)を絞り込むとともに、誘致及び継続的な事業の実施に必要な支援策を検討します。

イ. 新幹線開業を契機とした企業立地ニーズへの対応

- ・ 新幹線開業による通勤・出張等のアクセス向上を契機とした、サテライトオフィスのような新たな形態も含め、様々な企業立地の可能性を探るとともに、事業用地や空きオフィスの情報提供等、ニーズに応じた支援策を検討します。
- ・ 昨今の働き方の多様化に合わせ、ワーケーション※の促進や、空き家などを活用した職住近接型のオフィス環境の整備を検討します。
- ・ 歴史と自然が調和した住環境を活用することで、クリエイターなどの移住促進に繋げる方策を検討します。

※ ワーケーション…ワークとバケーションを組み合わせた造語で、観光地などで休暇を取りながらリモートワーク(遠隔勤務)する働き方。

スケジュール

第1フェーズ						第2フェーズ				第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
				新駅周辺における民間機能の誘導							
						【市】					
						新幹線開業を契機とした企業立地ニーズへの対応					
								【市】			

(1) 新駅を起点とした新たな観光プログラムの創造

新駅近隣にある奥沢水源地やその周辺の自然を活用した観光ガイドプログラムの開発を行います。また、新駅周辺に集積するゴム産業を活用した産業観光の検討や新駅からアクセスしやすい観光資源と連携した観光プログラムの検討を行います。

課題と解決方策

課題	解決方策
新駅を活かしてまちの魅力を高めるには、新駅周辺の潜在的な観光資源の磨き上げが必要	●奥沢水源地や周辺の工場などを活用した観光プログラムの検討

取組の概要

ア. 奥沢水源地と勝納川環境整備

- ・新駅周辺地域の自然を活用するための環境整備として、「奥沢水源地保存・活用基本構想」に基づき、奥沢水源地の散策路や広場等の整備に向け検討を進めるとともに、勝納川の親水機能の整備を整備主体へ要望します。(一部再掲)

イ. 奥沢水源地や周辺の自然環境を活用した観光ガイドプログラムの開発

- ・奥沢水源地や穴滝などの自然環境を活用した観光ガイドプログラムを開発します。
- ・プログラム開発に向けては、ガイドの育成や参加者が利用しやすい料金の設定、ゲストハウスと連携した多様な予約方法など持続的な活用が可能なよう工夫します。
- ・奥沢水源地と新駅周辺を巡るツアーについても検討します。

ウ. 奥沢周辺の観光資源との連携

- ・奥沢周辺に集積するゴム産業等を活用した産業観光や、ワイン工場・天狗山など新駅からアクセスしやすい観光資源と連携した観光プログラム(例:新駅からのタクシー送迎プラン等)を検討します。

スケジュール

第1フェーズ							第2フェーズ			第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
奥沢水源地保存・活用基本構想の具体化及び財源の検討 【市】											
勝納川の整備に関する協議 【道、市】											
観光プログラムの開発 【観光協会、観光事業者】											
							観光プログラムの試行・改善 【観光協会、観光事業者】				
										本格展開 【観光事業者等】	

奥沢水源地の保存・活用のイメージ図（出典：奥沢水源地保存・活用基本構想）



(1) 新幹線開業に向けた市民の意識醸成と利用促進

新幹線による来訪者の受入体制を整え、開業効果を市全体に広げるため、市民の関心や期待感を高める取組を行います。また、市民にとって開業のメリットが感じられ、利便性の高いダイヤの実現にも繋がるよう、市民等の新幹線利用を促進する取組を行います。

課題と解決方策

課題	解決方策
開業効果を広げるためには、市民の関心を高めることが必要	●新幹線開業に関する市民の意識を高める多様な取組の展開
市民にとって開業のメリットが感じられることが必要	●利便性の高いダイヤ実現に向けた市民等の利用促進

取組の概要

ア. 市民の新幹線開業気運を高めるイベントの実施

- ・新幹線開業を市民に実感してもらうために、新駅での試験走行歓迎セレモニーや駅舎見学会、出前講座等の開業に関するイベントを定期的の実施します。

イ. 開業までのカウントダウン

- ・小樽駅や市役所庁舎内に、新幹線開業までのカウントダウンボードを設置し、市民の期待感を高めます。
- ・市民以外の人への告知も兼ね、小樽市のHPや小樽市観光協会のHPのトップページにも新幹線開業までのカウントダウンカウンターを載せます。

ウ. 市民等の新幹線利用の促進

- ・市民に対する新幹線利用の支援策(例：新幹線通勤者への定期代補助等)を検討するとともに、新幹線利用のメリットの周知などを行い、市民の新幹線利用を促します。
- ・新幹線開業により東北エリアまでの移動が容易になることから、市民や市内の企業と東北エリアの活動や交流を深める取組を検討します。
- ・周辺自治体住民を対象とした新駅利用促進策(例：パークアンドライド駐車場の活用、教育旅行での新駅利用促進等)を検討します。

スケジュール

第1フェーズ							第2フェーズ			第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
							開業気運を高めるイベントの実施 【市、JRほか】				
							開業までのカウントダウン 【市、JRほか】				

(2) 開業気運を高めるイベントの実施

新幹線開業後のにぎわい創出に向け、北海道新幹線停車駅のある自治体や北後志地域が連携した開業イベントを実施するとともに、開業効果が継続するよう、周年イベントを開催します。

課題と解決方策

課題	解決方策
開業気運の醸成に向けた取組が必要	● 北海道新幹線停車駅のある自治体や北後志地域が連携したイベント等の展開

取組の概要

ア. 北海道新幹線停車駅のある自治体や北後志地域が連携した開業イベントの実施

- ・新幹線開業後のにぎわいを創出するには、小樽市だけではなく、北海道新幹線停車駅のある自治体や北後志地域全体で開業気運を高めることが重要です。各地域の既存イベントで新幹線開業のブースや告知や、札幌市・倶知安町と連携した東北方面でのプロモーション活動等を行います。

イ. 開業後のイベント実施

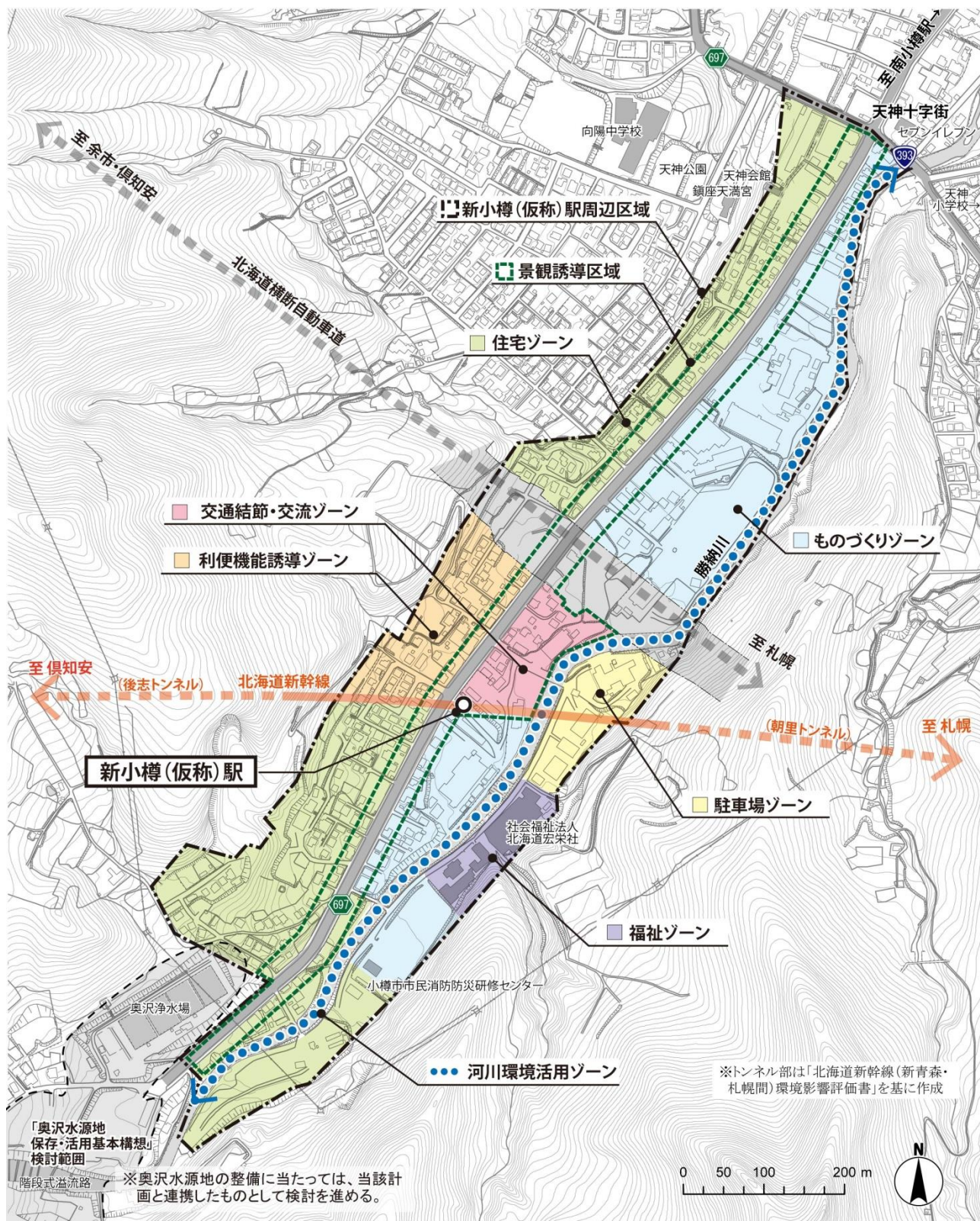
- ・開業以降も地域住民の新幹線への関心や開業効果が継続するよう、広域連携組織等において、おたる潮まつりや小樽雪あかりの路等のイベントに合わせた周年イベントを開催します。

スケジュール

第1フェーズ							第2フェーズ			第3フェーズ	
9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
					開業イベントの検討 【広域連携組織、観光協会】						
								開業イベント等の実施 【実施団体】			

参考資料

資料1 新駅周辺地域の土地利用計画（出典：まちづくり計画）



資料2 新駅周辺整備イメージ図



※この図面は、駅前広場等のレイアウト図(P.18)を基に作成したイメージ図であり、確定したものではありません。

今後、関係機関との協議で、駅舎及び鉄道施設、駅前広場等は変更する可能性があります。

資料3 北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会

【協議会設置要綱】

北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会設置要綱

制 定 平成30年12月1日

改 正 令和元年8月30日

（目的及び設置）

第1条 北海道新幹線新小樽（仮称）駅開業を見据え、その効果を最大限に活用した魅力あるまちづくりを目的として、「北海道新幹線新小樽（仮称）駅周辺まちづくり計画」に基づき、官民が一体となってアクションプランの作成や取組を推進する、北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（協議事項）

第2条 協議会は、次に掲げる事項について検討・協議する。

- （1）新小樽（仮称）駅周辺のまちづくりに関すること
- （2）新幹線開業に向けた2次交通対策、ソフト対策に関すること
- （3）その他目的の達成に必要な事項

（組織）

第3条 協議会は、別表に掲げる委員をもって組織する。

（役員）

第4条 協議会に次の役員を置き、委員の互選により定める。

- （1）会 長 1 名
 - （2）副会長 若干名
 - （3）監 事 2 名
- 2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。
- 4 監事は、協議会の会務及び会計を監査する。

（会議）

第5条 協議会の会議は、会長が必要に応じ招集する。

- 2 会長は、必要があると認めたときは、会議に関係者の出席を求め、意見または説明を聞くことができる。

（専門部会）

第6条 協議会には、具体的かつ専門的に調査、検討を行うため、専門部会を置くことができる。

（事務局）

第7条 協議会の事務局は、小樽市建設部新幹線・まちづくり推進室及び小樽商工会議所内に置く。

（解散）

第8条 協議会は、第1条に規定する目的を達成したときに解散する。

（補則）

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附則

この要綱は、平成30年12月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和元年8月30日から施行する。

【協議会委員】

別表（第3条、第4条関係）

役職	団体名	職名	氏名	備考	
会長	小樽市	市長	迫 俊哉		行政
オブザーバー	小樽開発建設部	部長	橋本 幸	平成30年度	
			渡邊 政義	令和元年度	
			坂場 武彦	令和2年度	
オブザーバー	後志総合振興局 （小樽建設管理部）	副局長	有澤 貴博	平成30年度	
			越智 通浩	令和元年度 令和2年度	
	北海道中央バス㈱	代表取締役社長	二階堂 恭仁		交通事業者
	ジェイ・アール北海道バス㈱	代表取締役社長	小玉 宏文		
	北海道旅客鉄道㈱	総合企画本部 新幹線計画部長	森 雅裕	平成30年度 令和元年度	
			村上 仁	令和2年度	
	小樽ハイヤー協会	指導委員長	坂田 理		
	新日本海フェリー㈱	執行役員 小樽本店営業部長	寺越 靖晃		
副会長	小樽商工会議所	会頭	山本 秀明		経済・産業団体
	小樽商工会議所	副会頭 北海道新幹線活用検討 特別委員会委員長	中野 豊		
	（一社）小樽青年会議所	監事	大川 晃弘	平成30年度 令和元年度（第3回）	
		理事長	宮前 渡	令和元年度（第4回） 令和2年度（第5回）	
			阿部 一雄	令和2年度（第6回、 第7回）	
監事	（一社）小樽物産協会	会長	富田 洋平		
監事	（一社）北海道中小企業家同友会 しりべし・小樽支部	支部長	上参郷 光祐		
	小樽市商店街振興組合連合会	理事長	中村 全博		
	（一社）北海道建築士事務所協会小樽支部	副支部長	金山 研一	平成30年度 令和元年度（第3回）	
		支部長	廣谷 昭	令和元年度（第4回） 令和2年度	
副会長	（一社）小樽観光協会	会長	西條 文雪		観光団体
	小樽ホテル・旅館組合	組合長	上谷 征男		宿泊団体
	小樽ホテルミーティング	代表	斎藤 英伸		
	朝里川温泉組合	組合長	前川 勝美	平成30年度 令和元年度	
			米山 幸宏	令和2年度	
副会長	小樽商科大学	理事 総務・財務担当副学長	江頭 進		学識経験者
	市民		古村 理美		市民
	市民		石川 博之		
	天神町会	会長	本間 哲夫		
	小樽市総連合町会	会長	増田 榮治		

【会議の開催内容】

		開催日	議題等
平成30年度	第1回	平成30年 12月27日(木)	・ 役員の互選について ・ 北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画について
	第2回	平成31年 1月30日(水)	・ 新小樽(仮称)駅の客流量算出の考え方について(報告) ・ 新駅附帯施設等について
令和元年度	第3回	令和元年 8月29日(木)	・ 新駅附帯施設の検討について ・ 専門部会の設置について
	第4回	令和2年 3月24日(火)	・ 新小樽(仮称)駅の駅前広場について(報告) ・ 新駅附帯施設について ・ 新駅客流量に関する増加戦略の取組に向けて
令和2年度	第5回	令和2年 10月28日(水)	・ 新駅附帯施設の検討状況について(報告) ・ (仮称)新幹線活用アクションプランについて
	第6回	令和3年 1月7日(木)	・ おたる新幹線まちづくりアクションプラン(原案)について ・ 新駅附帯施設について
	第7回	令和3年 3月22日(月)	・ おたる新幹線まちづくりアクションプラン(案)について

【専門部会設置要綱】

北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会専門部会設置要綱

制 定 令和元年 8 月 2 9 日

（設置）

第 1 条 北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会設置要綱第 6 条の規定に基づき、北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会（以下「協議会」という。）の協議事項について、具体的かつ専門的に調査及び検討を行うことを目的として専門部会（以下「部会」という。）を設置する。

（組織）

第 2 条 部会の種類及び所掌事務は、次に掲げるとおりとする。

（1）街並み・交通アクセス部会 新駅周辺の街並みに関する事項及び新駅からの 2 次交通の確保等に関する事項

（2）観光・産業振興部会 新幹線開業に伴う観光客の誘致促進及び機運醸成等に関する事項

2 各部会の委員（以下「部会委員」という。）は、次に掲げる者のうちから会長が指名する。

（1）北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会委員所属団体の推薦者

（2）その他会長が必要と認める者

（部会長及び副部会長）

第 3 条 部会に部会長及び副部会長を各 1 名置き、それぞれ部会委員の互選により定める。

2 部会長は、部会を代表して会務を総理し、部会の議長となる。

3 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第 4 条 部会は、部会長が招集する。

（事務局）

第 5 条 部会の事務局は、小樽市建設部新幹線・まちづくり推進室及び小樽商工会議所内に置く。

（解散）

第 6 条 専門部会は、第 1 条に規定する目的を達成したときに解散する。

（補則）

第 7 条 この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和元年 8 月 2 9 日から施行する。

(1)街並み・交通アクセス部会

【部会委員】

(※：部会のみ参加、兼：協議会委員兼務)

役職	団体名	職名	氏名	協議会兼務	備考
	小樽開発建設部	道路計画課長	瀬能 博之		令和元年度
			佐々木 博一		令和２年度
	後志総合振興局 (小樽建設管理部)	副局長	山本 浩之		令和元年度
			高田 秀司		令和２年度
	北海道中央バス(株)	バス事業部次長	五十嵐 俊克		令和元年度
		バス事業部副部長	荒井 征人		令和２年度
	ジェイ・アール北海道バス(株)	営業部副部長	大木 雅智		
	北海道旅客鉄道(株)	総合企画本部 新幹線計画部主査	広田 隆司	兼	
	小樽ハイヤー協会	指導委員長	坂田 理	兼	
部会長	小樽商工会議所	副会頭 北海道新幹線活用検討 特別委員会委員長	中野 豊	兼	
	(一社)北海道建築士事務所協会小樽支部	副支部長	金山 研一	兼	令和元年度
		支部長	廣谷 昭	兼	令和２年度
副部会長	小樽商科大学	准教授	後藤 英之		
	市民		古村 理美	兼	
	天神町会	会長	本間 哲夫	兼	
	小樽市総連合町会	会長	増田 榮治	兼	
	(株)トヨタレンタリース札幌※	小樽駅前店 店長	東海林 大樹		
	小樽市建設部新幹線・まちづくり推進室 (地域公共交通担当)※	主幹	近藤 玲司		
オブザーバー	北海道運輸局札幌運輸支局※	首席運輸企画専門官	杉澤 武則		令和２年度

【会議の開催内容】

		開催日	議題等
令和元年度	第１回	令和元年 10月11日(金)	・正副部会長の選任について ・北海道新幹線新小樽（仮称）駅周辺まちづくり計画について ・協議会開催概要について ・アクションプランについて ・今後の進め方について
令和2年度	第２回	令和2年 8月4日(火)	・街並み・交通アクセス部会に関する動向について ・アクションプランの検討について
	第３回	令和2年 8月20日(木)	・街並み・交通アクセス部会に関する補足説明について ・アクションプランの検討について
	第４回	令和2年 11月30日(月)	・アクションプラン原案について

(2)観光・産業振興部会

【部会委員】

(※：部会のみ参加、兼：協議会委員兼務)

役職	団体名	職名	氏名	協議会兼務	備考
	新日本海フェリー㈱	小樽本店営業課副長	佐藤 元昭		
副部会長	小樽商工会議所	北海道新幹線活用検討 特別委員会副委員長	佐林 史明		
	(一社) 小樽青年会議所	2019年度監事	大川 晃弘	兼	令和元年度
		理事長	宮前 渡	兼	令和2年度
	(一社) 小樽物産協会	マネージャー	木村 力		
	(一社) 北海道中小企業家同友会 しりべし・小樽支部		簗谷 和臣		
	小樽市商店街振興組合連合会	事務局長	横山 登起男		
部会長	(一社) 小樽観光協会	会長	西條 文雪	兼	
	小樽ホテル・旅館組合		金宗 有美		
	小樽ホテルミーティング	代表	斎藤 英伸	兼	
	朝里川温泉組合	組合長	前川 勝美	兼	令和元年度 令和2年度(第2回)
			米山 幸宏	兼	令和2年度(第3回、 第4回)
	小樽商科大学	教授	内田 純一		
	市民		石川 博之	兼	
	㈱日本旅行北海道*	小樽支店 支店長	逢坂 裕司		
	DCTツーリスト㈱*	代表取締役社長	奥村 雄一郎		
	小樽市産業港湾部観光振興室 (企画宣伝担当)*	主幹	中村 寿春		

【会議の開催内容】

		開催日	議題等
令和元年度	第1回	令和元年 10月7日(月)	・正副部会長の選任について ・北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画について ・協議会開催概要について ・アクションプランについて ・今後の進め方について
令和2年度	第2回	令和2年 8月6日(木)	・観光・産業振興部会に関する動向について ・アクションプランの検討について
	第3回	令和2年 8月25日(火)	・アクションプランの検討について
	第4回	令和2年 11月30日(月)	・アクションプラン原案について

